

平成24年度 留萌市議会議員出欠状況

平成24年4月1日～  
平成25年3月31日

議員名	開催回数	燕	笹本	鶴城	川口	珍田	坂本	野呂	坂本	小野	対馬	天谷	村上	菅原千鶴子	野崎	村山ゆかり	松本			
		昌克	牧司	雪子	宏和	亮子	茂	照幸	守正	敏雄	真澄	孝行	均	千鶴子	良夫	ゆかり	衆司			
		出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席			
定例会	18回	18	18	18	18	18	18	15	3	18	18	18	17	1	18	18	17	1		
臨時会	3回	3	3	3	3	2	1	3	3	3	2	1	3	3	3	3	2	1		
特別委員会	予算審査	4回	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	決算審査	3回	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
議会運営委員会	12回		11	1				10	2				12			11	1	11	1	
常任委員会	第1	15回	14	1	15	15	14	1				13	2	13	2		14	1	14	1
	第2	17回												17	15	2	16	1	17	14

※(公)は公の用件 ※□は出席対象外の会議 ※委員会は開催状況により出席回数異なります。

委員会名	開催回数	構成委員
議会広報特別委員会	20回	菅原・鶴城・燕・川口・天谷
議会活性化推進特別委員会	14回	全委員16名
・第1小委員会	12回	松本・坂本茂・鶴城・珍田・坂本守正・天谷・菅原・野崎
・第2小委員会	12回	野呂・村上・燕・笹本・川口・小野・対馬・村山
・議会基本条例策定作業チーム	10回	村山・野崎・笹本・坂本茂・坂本守正・村上
監査委員	40回	珍田
全員協議会	4回	全議員16名
南部衛生組合議会・協議会	10回	菅原・笹本・対馬・村上
消防組合議会・協議会	6回	松本・燕・坂本茂・野呂・天谷

議会の傍聴(見学)について

議会は本会議、予算審査特別委員会・決算審査特別委員会などの傍聴ができます。

詳しくはお知らせ掲示板・ホームページなどをご覧ください。

# 議会です こんにちは

もくじ

- P16 議会活性化推進に向けて
- P17 留萌市議会議員出欠状況
- P18~21 第2回定例会一般質問項目
- P22 各常任委員会報告
- P23 組合議会報告 ほか

## 議会活性化推進に向けて

留萌市議会では一昨年から特別委員会を設置し、市民に開かれた議会を目指し、あらゆる手段をもって議会のありべき姿を模索してきている。すでに実施の運びとなったものもあれば、いまだ道半ばの懸案もある。市民の皆さんから見れば遅々として進まない活性化のように思われるかもしれないが、着実に一歩一歩進んでいる。

今、議会改革という言葉が適切であるかは市民の皆さんの判断に任せるほかないが、自らの足を元を照らす作業を行っている。

今回の広報ではその一端を市民の皆さんにご報告させていただきます。

5月に市民の皆さんの協力を得ながら議会の様子をお伝えする手段として、FMもえるを活用するかどうかのアンケートを行った。

その結果、FMもえるでの定例会での一般質問放送を望む多くの声が寄せられた。

その結果を受けて、6月議会から定例会議会の一般質問放送を録音ではあるが、質問当日に放送を行うこととなった。

また、アンケートの中ではお知らせ掲示板や広報に寄せられる期待の大ききにも改めて気付かせていただくことができた。

現在、議会活性化推進特別委員会(野崎良夫委員長)では、議会基本条例策定小委員会(村上均委員長)において議会基本条例の原案作成が着々と進められており、市民の皆さんに求められる議員の姿勢と自らが目指すべき議員の姿勢を考えている。

また、組織運営小委員会(菅原千鶴子委員長)では、議会基本条例策定に合わせ有名無実とならないように実現可能な組織づくりや運営について協議を重ねている。

理事者の理解を得ながら今後さらに開かれた議会づくりに向かってまい進することになるだろう。

### 議会出欠状況 報告について

議会広報を発行するに当たり、議員の出欠状況をお知らせするということは、市民の皆さんに、理由のいかんにかかわらず、出欠という簡単な明瞭な事実を伝えることも開かれた議会を目指す議会広報の役割ではないかという思いからであった。

他の自治体ですすでに行われているところもあるが、留萌市議会では今まで論議はされてきたが、結果を得ることができなかったものとして、市議会議員の議会出欠状況の報告があった。

議員の議会出欠は直接市民の目に触れることは今までなかったため時に誤解を与えることも懸念され、実施に至らなかったようだ。

出欠報告は開かれた議会の1ページとしてここに報告したい。

平成25年 第2回定例会

一般質問と答弁を  
ご紹介いたします

村上 均 議員  
(公明党)

一、防災対策と強いまちづくりについて

二、高齢者福祉政策について  
**問一** 土砂災害危険箇所について、留萌市には（土石流危険渓流・地すべり危険箇所・急傾斜地崩壊危険箇所など）危険箇所が一七四カ所存在します。これまでの土砂災害危険箇所に対する対策や今後の災害時要援護者対策（個別計画）の推進策と課題について伺いたい。

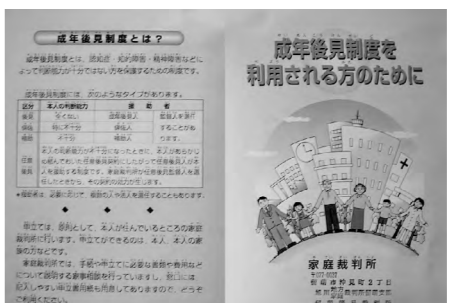
**答一** 千鳥町、泉町、南町などが土砂災害警戒区域に指定されており、気象条件によってはがけ崩れなどの土砂災害が発生する可能性が増している。市では土砂災害防止法に基づき防災意識の高揚を図るため市民訓練を行っている。また、災害時要援護者プランの全体計画を作成した。

今後は個別計画策定の準備を進める。今年度は二町内会をモデル地区に指定し、対象者にダイレクトメールを送付、希望者を募る手上げ方式を採用。策定に向けた課題は、要援護者を支援する町内会の協力が不可欠であり、さらに援護を受ける側と援護する側のマッチングや個人情報取り扱いについても慎重に行わなければならない。

**問一** 独居高齢者の孤独死を防ぐためにどのような取り組みをしているのか伺いたい。  
また、成年後見制度の市民後見人養成事業についての取り組みを伺いたい。

**答一** 二十四年度は二件の孤独死を把握している。防止策としては緊急通報システム、給食サービス、安否確認訪問、民生児童委員や宅配業者などの見守り活動などを関係機関と連携しながら実施している。また、道は二十四年から市民後見人養成事業を推進

しており、市は今年八月に講演会を開催し市民後見人の必要性などを周知し、十月に研修会を開催して二十五年度中に市民後見人を育成したいと考えている。



▲成年後見制度パンフレット

笹本 牧司 議員  
(萌政会)

一、留萌市の将来展望

二、地域の活性化について

**問一** 将来に備える対策について  
将来の人口減少・高齢化に備える対策として、雇用を確保し、医療・介護、子育てなどの生活環境を維持すること、また、産業を維持して留萌に住み続けることのできる環境を整えることが重要と考えるがいかがか。  
**答一** これまで行ってきた緊

急雇用対策事業、地域おこし協力隊事業、官民一体となつて取り組んできた地域活性化対策事業など、国の制度を活用しながら限られた財源を有効に活用し、人口減少対策につながる事業に取り組んでいる。持続可能な市政運営を行うためにも人口の維持ができ、交流人口の増加が図られるような環境整備を進めていきたい。

**問一** 交流人口増大施策について  
留萌市の現状をみるとときに基幹産業や再生可能エネルギーなど多くを望めない状況であるが、留萌に現在ある資源を生かした観光振興に焦点を当て地域の活性化を図るべきと考える。そこで留萌市観光ビジョンにも新たな観光振興策による交流人口増加が述べられているが、その具体策について伺いたい。  
**答一** 昨年実施している観光・感動事業（カズモちゃんバスによる観光施設巡回・ゴールデンビーチの海岸花火大会）の継続と緊急雇用対策事業による観光サービスの充実研究を実施する。また、先の議会で議論いただいた新ブ



▲カズモちゃんバス(千望台)

坂本 茂 議員  
(無党派)

一、地域の経済循環促進について  
二、健康都市宣言の具体化及び福祉について

**問一** 地域の資源と条件を生かした産業の振興について  
留萌市の農業振興と持続にとって切実な課題となつてい

る後継者問題と農作業受託組織について、その後の進展について伺いたい。また、農業後継者に直結する制度ではないが、国の事業である地域おこし協力隊公募の中で、農業関係に従事する人材を募集していたが結果を伺いたい。

**答一** 農業後継者問題は重要な課題として受け止めている。しかしながら農業者の人材を育成することはなかなか厳しい状況にあるので、国の制度などを利用しながら、また農業者の子弟等の中で意見を聞きながら、何とかこの地域の後継者づくりをすすめてい。地域おこし協力隊の公募では、農業に従事したいということだけで一人の応募があり、面接の結果適正というかたちで採用した。農作業の受託組織などの設立についても十分検討していかねばならないと考えている。



▲特定健診に集まった市民

野崎 良夫 議員  
(無党派)

一、環太平洋連携協定（TPP）について

二、閉校後の利活用について  
**問一** 地域への影響や具体的な行動は

方法である、るもいメタボリックアンケート（市立病院の笹川院長考案）を継続する必要があるのではないか。  
**答一** 平成二十四年五月のデータによると、留萌市では、循環器系疾患・脳梗塞・高血圧・虚血性心疾患が北海道の平均よりも高い状況になっている。今後は、循環器系疾患予防のため健診受診率の向上と、きめ細かい個別支援により生活改善のための啓蒙活動に努めたい。

TPPは、農業にとどまらず、二十一分野と広範囲で国民生活に多大な影響を及ぼすテーマであり、留萌市では市内経済や市民生活にどのような影響が予想されるか。  
これまでの議会答弁では「北海道市長会や留萌地域総合開発期成会で反対要請を行ってきた」と述べられているが、TPP交渉参加反対の意思表示を具体的な行動で市民に示すべきではないか。  
**答一** 地方への具体的な影響に関する国からの十分な説明がない。市内経済や市民生活にどのような影響が出るのか懸念をしている。北海道市長会などを通じて国に対し情報提供を強く求めていく。  
道民の合意がないままTPP交渉へ参加することのない様、北海道市長会などを通じて要請していく。農業団体を始め、関係団体と連携を図りながら取り組んでいく。

**問一** 旧沖見小及び幌糠小の活用は  
二十四年度末で閉校した旧沖見小学校は、現在留萌小学校として使用しているが、新留萌小学校完成後の利活用をどう考えているのか。二十五



▲利活用が求められる旧沖見小学校

年度末で幌糠小学校が閉校となるが地域における関心事でもあり、今後の利活用の見通しはどう考えているか。

**答一** 旧沖見小学校、幌糠小学校の閉校後の利活用は重大な課題となっている。二十五年度及び、二十六年度の二年間で他都市での活用事例の研究を行うとともに、用途による耐震性補強や、費用対効果を考慮した全学的なマッチングを進める観点を持って十分に検討し地域と協議した中で原案を作成し全学的な検討において方向性を決めていきたい。なお、幌糠地区については、飲料水に関する課題も解決しなければならぬ。

坂本 守正 議員  
(民主クラブ)

**問一** 全国学力・学習状況調査に対する取り組みについて  
道教委は、今年度の調査に

一、地域雇用の安定・創出について  
**問一** 新規高校卒業者の就職状況について  
新規高校卒業者の定着率が低く、地方に流れている留萌地域での人材育成や人材確保が課題であり、学生・生徒や保護者の地元産業の理解を深めるため、企業の理解を得ながら職業見学や職場体験の機会を拡充することが必要。また、新規卒業者を受け入れる採用事業主に対する助成制度の創設、あるいは拡充策を講じてはどうか。  
**答一** 生徒の社会的・職業的自立のために社会・職業への円滑な移行に必要な力の育成、生徒だけでなく保護者の産業理解を深めるため職業見学や職場体験の機会を拡充するため、関係機関と連携を密にしながら地元経済界、新規卒業者の採用が見込まれる企業に対して働きかけるとともに、地域経済の活性化を図り、雇用の場の確保に取り組んでいきたい。

対する事前の取り組みについて、保護者や生徒に説明用のパンフレットを作成したがその内容は、平均点数を上げるだけの本来の趣旨から逸脱した記述が見受けられる。また、平成二十四年度では「チャレンジテスト」を夏冬の二回実施するなど学校現場に負担が生じているのではないかと。



▲授業に集中する留萌小学校の児童

【答二】パンフレットの詳細を見ると、現在の北海道の子どもの学力の現状や家庭学習の実態、さらには「復習」の大切さや保護者ができる家庭学習へのサポートなどが盛り込まれていると理解する。各学校によってはチャレンジテストを朝自習や家庭学習でも活用しており、通常の教育活動の中で工夫して時間を

作ることにより、十分対応可能なものである。

対馬 真澄 議員 (萌芽クラブ)

一、大雪に対する取り組みについて

二、学校教育について

【問一】今冬の大雪は、市内交通網が麻痺するなど、市民生活に大きな影響を及ぼした。例年の雪対策では不十分と考える。

災害対策本部を設置する基準を策定する考えはあるか。また、冬に安心して暮らすため地域との連携や協働も含めた留萌市としての雪対策基本計画を策定する考えはあるか。

【答一】現在は豪雪時の災害対策本部設置基準は設けていない。この冬の大雪は除雪対策室本部を強化して対応した。今後は以下の状況が発生したとき災害の拡大を防止するため、災害対策本部の設置を判断したい。①豪雪によって人命が危機に瀕している状況が発生した場合②道路管理者の相互連携においても除雪体制が取れない場合③電力や燃料の供給が止まった場合④緊急車両の通行が全くできない場合⑤豪雪だけでなく地震な

業従事者の担い手不足が大きな課題。農家人口の推移と安定的な経営確保について聞きたい。

また、留萌市独自の新規就農者支援制度を検討いただきたい。さらに不耕作地を発生させない対策と留萌産硬質小麦ルルロツソ生産拡大への取り組みを伺いたい。



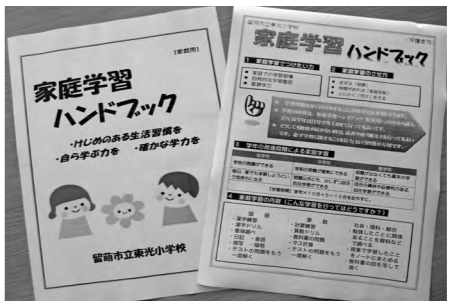
▲るもい親子「あぐり教室」

【答一】留萌市の農業事情は、平成二十二年時点から十年後の農家人口は四十%減少、四十八戸百三人となる予測値が出ています。経営所得安定対策など、国の制度の動きを注視している。また、子どもたちが農業に興味を持ち将来の担い手となるようなプログラムとして「あぐり教室」などを実施したい。

新規就農希望者へは、農業生産法人や大規模農家での研

どの複合的な発生などがある時。

また、雪対策に対する地域住民の理解と協力を得るために広報活動や啓発活動を継続したい。



▲家庭学習ハンドブック(東光小学校)

【問二】全国学力、学習状況調査で「九九のできないまま」「アルファベットの書けないまま」義務教育を修了する児童生徒がいる実態が明らかになった。基礎学力を身に付けさせることの重要性を強く感じる。そこで、学力向上を目的に北海道教育委員会の進めている学校力向上に関する総合実践事業を取り入れる考えはあるか。また、学校での体罰事件が北海道で昨年九十件起きているが、今後教育委員会は状況を把握するための調査を行うか。そして、児童生

徒の心と体を回復させる体制はあるか。

川口 宏和 議員 (萌芽クラブ)

【答二】学校力向上に関する総合実践事業について教育委員会、対象校の学校長による勉強会を開き、平成二十六年以降の実施に向けて判断したい。体罰やいじめを許さない、出さない学校づくりを指し、学校と教育委員会が連携を密にとり、早期に把握できる体制をとっている。またスクールカウンセラーなどの専門機関を利用して児童生徒のアフターケアを実施したい。

【問一】商店街を活性化させることはその地域の魅力を引き出すことの近道であり、人々の地元への愛着心を育てることになるが、まちの顔としての機能を果たすべく、留萌市としてこれからのように中心市街地を活性化すべきであると考えているか。



▲中心市街地の様子

【問一】消費者の減少や生活形

一、第七期実施計画の実現性について

【問一】市民満足度調査から見える市民要望について市長の施策と、市民の考えにズレがあるのではないかと考える。

ここ数年の調査ではいつもトップの市民要望は中心市街地のにぎわいを求めている。市長は緊急性の高いものから施策を優先的に実行するというが、本当に市民要望の高いもの、緊急度の高いものから行われているのだろうか。緊急度が体験体感型施設や夜の千望台観光なのか。雇用拡大というが、経済をまわさなければ雇用は拡大されないと考えがいかかか。

【答一】街中のにぎわいにも観光による交流は有効だと考えた。地域経済の活性化にとって有効な手段としてあえて財政健全化の最中であっても必要な優先度の高い政策だと考えた。今じゃなければだめだと思った。

【問二】障がい者の所得向上に向けた取り組みを厚生労働省

Table with 2 columns: 障がい者の法定雇用率引き上げに関する情報. Includes a small chart showing percentages.

省ホームページより

【答二】他都市の現状について調査したところ近隣の旭川市や名寄市などで実施されている。

留萌市でも今後、市内の企業に対し理解を得られるよう関係団体と協力しながら推進していきたい。

菅原千鶴子 議員 (民主クラブ)

平成二十七年までに歩道の改修整備も予定。また、東光小通学路の大通り橋の高欄については、橋りょう寿命化計画策定後の二十六年年度以降、優先的に改修工事を行いたい。

【問一】障がい者の所得向上に向けた取り組みを厚生労働省

# こんなことが決まりました

## 第2回定例会 6月4日～12日

平成25年第2回定例会が9日間の会期で開催され、一般会計補正予算、条例改正などを審議しました。

### 【諮問】

人権擁護委員の推薦について…………… 適任

### 【報告】

留萌市土地開発公社の平成24年度決算に関する書類及び平成25年度事業計画に関する書類の提出について ほか5件…………… 了

### 【議案】

平成25年度留萌市一般会計補正予算（第4号）

主な補正予算の内容は、介護基盤緊急整備等特別対策事業補助金205,320（千円）は現在、特別養護老人ホームの待機者の増加が課題となっていたため、平成25年度中の完成を目指し補正予算が可決しました。 ほか3件…………… 原案可決

### 【意見書】

義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など2014年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書 ほか5件…………… 原案可決

## 留萌消防組合議会報告

平成25年留萌消防組合議会第1回臨時会が、6月20日に開催されました。始めに消防長から「平成25年留萌消防組合補正予算（第1号）について」として、その主な内容としては、J A共済連北海道さまから寄贈いただいた救急車車両を高規格仕様に艤装（ぎそう）するための業務委託料と、高度救命処置用資機材の購入費であります。

これにより市民の皆さんの命を守る、安心・安全を守る消防としての使命が、また一つ担保されることとなります。

続いて、「北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について」、「北海道市町村総合事務組合規約の変更について」で加盟団体の追加と文言変更を審査し、すべてを承認いたしました。

## 留萌南部衛生組合議会報告

留萌南部衛生組合議会では、5月13日に小平町の消滅型生ごみ処理施設の視察を行いました。

生ごみに混入されている不燃ごみや危険ごみなどもあり、今後ごみ分別の更なる理解を求めているかなければならないということが確認されました。

また、留萌市の美・サイクル館では、プラ製品や雑紙・紙製容器などの分別もまだまだ理解されていない現状であり課題が残りました。6月6日に臨時議会が開かれ、小平町の生ごみ処理施設の搬入口の設計変更に伴う補正予算について質問が出され、組合長に対し、このようなことが繰り返されること無いようにしてほしいという要望が出されました。



生ごみ処理施設搬入口

## 議会広報 特別委員会

留萌市議会では一昨年から市民に開かれた議会を目指し、FMもえるでの一般質問の放送や、公共施設でのお知らせ掲示板の設置、市議会ホームページのリニューアルなどの取り組みを行いました。

また、議会の仕事を市民の皆様様に理解して頂くために、この度初めて議会における定例会、及び各委員会の開催回数をお知らせすると共に、全議員の出席状況もお知らせ致します。

今後におきましても議会改革を推し進めて参りますので、市民の皆様のご意見ご要望をお待ちしております。

- 委員長 菅原千鶴子
- 副委員長 鶴城雪子
- 委員 燕昌克
- 委員 川口宏和
- 委員 天谷孝行

## 各常任委員会からの報告

### 第一常任委員会報告

#### 安心・安全な給水のために

第一常任委員会（野呂照幸委員長）は五月七日新信砂地区の浄水場施設の視察を行った。

この浄水場施設は、留萌市民に美味しくしかも安心できる給水のために暑寒別岳を水源とし、新信砂川から取水して浄化する施設であり、浄水施設本体は平成十年二月に完成した最新の浄水施設である。

この新信砂地区で浄水された水は、約十キロの送水管により沖見配水池を経て、各家庭に届けられている。

今回の委員会視察では、浄水場の現況について確認をした。特に取水口及び導水管は昭和二十六年度に建設された老朽化施設であり抜本的な整備の必要性などについて上下水道課の担当者説明を受けた。

また、留萌市沖見町までの送水管についても老朽化している箇所もあり、漏水の危険に対応する必要性について把握した。

整備については多くの予算を必要とすることから、今後しっかりと議論を進めていかなければならないが、市民に安全で、しかも美味しい水を届けるためのチェックの必要性を確認した。

#### パソコンが新しく

現在、市役所で使われているパソコンの基本ソフトはウインドウズXPだが、この基本ソフトのサポートが平成二十六年四月に終了することが発表され、システムの安全性が確保されないことが明らかになった。

また、現在使用中のパソコンのハードディスク容量やメモリ不足などにより業務処理に支障がでていることから今年度六月末を目途に二百五十台のパソコンが更新される。

このパソコンの更新により安全でしかも業務処理の迅速化が期待できる。購入にあたっては、多くの予算が必要となるため五年間で支払う計画である。「使いこなすこと」が望まれる。



▲老朽化が著しい取水施設（新信砂）

### 第二常任委員会報告

#### 共生型グループホーム開設

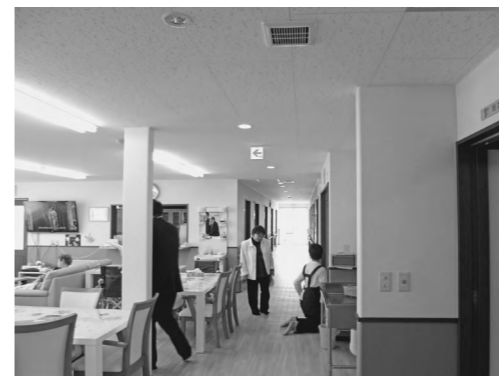
第二常任委員会（村山ゆかり委員長）は五月九日、留萌市内に初めて開設された共生型グループホームえがお末広（入居者定数十三名）を視察した。

日常生活に介助を必要とする認知症高齢者の方と心身に何らかの障がいがある方が共に生活をする場である。入居者それぞれの状態により、必要なサービスを提供し、可能な限り自立した生活を支援することを目的として、社会福祉法人留萌市社会福祉協議会が創設、運営をしている。明るくアットホームな空間が広がり、入居者の方が楽しく交流していた。高齢者と障がい者の交流を積極的に行うことにより相互に影響し合い、多様な効果が期待される施設だけに今後も注目していきたい。

#### 教育環境整備と廃校舎活用

留萌市が、平成二十三年に策定した「留萌市立小中学校適正配置計画」によると平成二十九年までに留萌小、東光小、緑丘小の三校と留萌中、港南中の二校に統合する計画となっている。

留萌小学校の改築工事に合わせ留萌小学校、沖見小学校を統合し、校舎完成までの間については旧沖見小学校舎を留萌小仮校舎として使用している。



▲共生型グループホームえがお末広

留萌小改築工事費は、約十五億円、八月中旬から本工事着工となり、平成二十六年十一月末の完成を予定している。新校舎は、一学年二学級の普通教室の他に特別支援教室やことばの教室の配置、屋内体育館などに避難所としての機能を盛り込むなど防災に配慮した校舎であり、素晴らしい教育環境が整備される。二十五年度末で閉校する幌糠小学校も含めて、今後も進められる統廃合が地域へ及ぼす影響を考慮し、新たな地域コミュニティの創造を推進していかなければならない。また、廃校舎の活用計画が来年度中にも提案されるということであるから、地域住民が求める活用策を共に検討していきたい。